

郷土史抄

故濟先生の遺影を偲ぶ 三
 瀧川家の史料探訪
 鮫川 漁 史

是れ磐城出身最初の縣政要人であり、白井達平(副議長)佐藤甚右衛門(議長)等は彼れの後輩である。以て先生の一定中は、既に郷土的にも英才の多数なるを片見されるでないか。(嗣子等に嫁に就きてはししがき参照)

先生夙に息軒の許に志を修めて歸藩後は、先輩松井兵馬桑原重實、平野廉、北郷保定等と交誼し、互に大義名分を主張し、先哲の言行を語るを以て、侃諤之に日の暮るゝを知らなかつたと云ふ。殊に先生は最も若年なるに拘はらず早くも和漢、詩文に一家を成し、時勢の進展を識り、救民開拓の方法を叫びて、衆士の畏敬する所となつた。是れは先生の遺文、著書に據りて就れも窺察され、予は今自ら禮を正しうして、其等を前に積んで無限の感激を受けつゝ、此の稿を書いて居る。

彼れは元來、關外入口の妙たる小藩(一万五千石)醫師の嫡男に生れながら、其の業を襲ぐのを心好しとせず、常に藩邸に出仕して、子弟は和漢を講授するのを自己の本分とした、従つて彼れは諸子を誨ふに専ら勤王、仁恤を以てし、極めて巧言全色を避け、嚴肅のうちにも人と接するに謙讓慈愛を見し未だ嘗て詭激の行ひがない。其の人と爲る所以、即ち先生の識見、人格の根柢、要素は、實に次の自作(菊浦詩鈔所収)に表はれてゐる。

平生愛書如食色、床頭爛醉盡典籍、時是七月初、開函瀧川魚、命奴擲架上、命重擁且舒、先生陵前更相戒、丁寧當緝船來寄、書中最愛是何部、十三經佩文韻府、是予嘗縮衣食所購、家有二書未全貧困、童日先生愛書常懶讀、貯藏徒飽魚腹、若勤涉獲圖不生、年々何須秋陽曝(以上ノ長詩ニ對シテ、原甚ニ空櫻閣、龜谷省軒ノ批評アリ)

しづかに	食事に	来る	正し	正し	正し	正し
酒場	喫茶	食堂	酒場	喫茶	食堂	酒場

平田町 レストラン サロン
 電話三五二

正確 体温計
 寒暖計
 計量器指定販賣
 平町五丁目
 山野邊藥局

内科、小兒科
大森醫院
 醫學士 大森 勇
 入院 電話二五八番
 平町南町

スペインG.H.N 元話
ゴルフポートワイン
 甘味葡萄酒 1・10
 婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
 (平2) 西村屋藥舗 (電3)
 平町紺屋町
藤沼醫院
 電五〇七番

債券 公債 両替 金融
多田井質店
 平町大工町 電話五九一

耳鼻咽喉科専門
 醫學士 鈴木 正 男
 平町田町(電話五八番)藤田女學校前
鈴木醫院
 入院應需

清爽簡易な
サンマードレス
 婦人用とお子さん用……
 各種、華やかに陳列
 中元贈答用品……各種
ツルヤ
 平四 電一四〇

産科 婦人科 院長 長木村寅次郎
 外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 玄蕃彌一
 平町新川町九一
 入院隨意 病室完備
木村病院
 電話一六四番

洋服は
高島屋
 電話三八六
 注文並に既製品
 夏物 入荷
 澤山
高島屋洋服店
 マグネトロン

百萬の富より健康
 此新療法で病弱を御試しなさい
 「治療代」は當分一回三十錢として居りますが御家庭の事情により割引も施療も致します
 嘘か實か百聞一見御試し下さい
治療所 日中は 城山藥園(電話一〇九) 日没後は一丁目自宅(電話四七〇)
診療士 飯田近治

内科 小兒科
 外科 花柳病科
 耳鼻咽喉科
 レントゲン科
 平町田町 電話五二三番
高久病院
 院長 醫學士 高久 忠

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
 平代理店 關内正一
 平町二丁目 電話一六番
 事務取扱者 阿部助次郎

新時代の要求
 附屬事業に等外看護婦部を特設いたし皆様の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します
平看護婦會
 平町南町 電話三〇七
 會長 清野キヨ
 御手不足の御家庭輕い御病人の付添妊婦産婦の御家庭

朝日
 朝日
 朝日
朝日
 金屋商店

好評 たる各種優秀藥
強力流經劑 (定價二圓、三圓、五圓、十圓)
治淋新劑トリックス (定價二圓、三圓、五圓)
Aアイヨ一錠 (定價二圓、六圓、二十圓)
Bトーゲン (定價二圓、三圓、五圓、十圓)
 特約店(平町五丁目通り) 山野邊藥局